



円相場、下落し 155 円 40 銭近辺 対ユーロは上昇

14 日早朝の東京外国為替市場で、円相場は下落している。8 時 30 分時点は 1 ドル=155 円 39~42 銭と前日 17 時時点と比べて 29 銭の円安・ドル高だった。米メディアは 13 日、連邦議会選で下院でも共和党が多数派となる見通しと報じた。財政拡張への思惑などから米長期金利の先高観は根強く、日米金利差の拡大を見込んだ円売り・ドル買いが先行しやすくなっている。

13 日のニューヨーク市場で円は一時 155 円 63 銭近辺と、7 月下旬以来の安値をつけた。足元で米長期金利は 4.4%台の高い水準での推移が続いている。米大統領と議会の上下両院を共和党が押さえる「トリプルレッド」が確実になり、同党のトランプ前大統領が掲げる財政拡張やインフレにつながる政策が実現しやすくなるとの見方が広がっている。

投資家のリスク選好姿勢が衰えていないのも相対的に低リスクとされる円の重荷となっている。13 日発表の 10 月の米消費者物価指数(CPI)は前月比 2.6%上昇し、市場予想と一致した。米連邦準備理事会(FRB)は 12 月も利下げを継続できるとの受け止めが広がり、トランプ氏による政策への期待とあわせて、米株式相場の支えとなった。14 日の日経平均株価も上昇するとの思惑も加わり、円売り・ドル買いを促している。

一方、円は対ユーロで上昇している。8 時 30 分時点は 1 ユーロ=164 円 16~22 銭と、同 28 銭の円高・ユーロ安だった。対ドルのユーロ安につられた。

ユーロは対ドルで下落している。8 時 30 分時点は 1 ユーロ=1.0564~65 ドルと同 0.0038 ドルのユーロ安・ドル高だった。前日の海外市場では一時 1.0556 ドルと約 1 年ぶりの安値をつけた。米長期金利の上昇や、トランプ政権による関税引き上げへの懸念などからユーロ売りにも勢いがある。



原油が小反落、中国経済の減速懸念で 金は反落

14日朝方の国内商品先物市場で、原油は小反落して取引を始めた。中心限月の2025年4月物は1キロリットル6万7040円と前日の清算値に比べ10円安い水準で寄り付いた。中国経済の減速懸念などを背景に売りが先行している。一方、東京外国為替市場で円相場が下落しており、円建てで取引される原油先物の割安感を意識した買いも入り、相場を下支えしている。

金は反落している。中心限月の25年10月物は1グラム1万2921円と前日の清算値を137円下回る水準で取引を始めた。13日の米長期金利が上昇したことで、金利のつかない金先物の投資妙味が薄れるとの見方から売りが出ている。

日本時間14日早朝の取引で、ニューヨーク金先物相場が続落していることも、国内金相場の重荷になっている。NY金先物の中心限月の12月物は一時1トロイオンス2573.6ドルまで下げ、中心限月として約2カ月ぶりの安値をつけた。

白金は反落している。中心限月の25年10月物は1グラム4673円と前日の清算値を59円下回る水準で寄り付いた。夜間取引で一時4657円まで下げ、中心限月として10月中旬以来ほぼ1カ月ぶりの安値をつけた。



岩谷産業、コスモの製油所で水素製造 300 億円投じ増産

岩谷産業はコスモエネルギーホールディングス(HD)傘下のコスモ石油の製油所で水素を製造する。300 億円程度を投じてプラントを建設し、2026 年度にも供給を始める計画だ。水素は燃やしても二酸化炭素(CO₂)を排出せず、化石燃料を代替するエネルギーとして注目される。量産体制を整えてコスト低減につなげ、普及を狙う。

コスモ石油は千葉県市原市、三重県四日市市、堺市に製油所を持ち、どこに整備するかは今後詰める。原油を精製する工程で大量の水素が必要となるため、天然ガスなどを改質する装置を持つコスモエネルギーHD が知見を生かしてプラントを設計する。岩谷は水素を圧縮するための液化装置などの整備に 200 億~300 億円を投じる見通しだ。

岩谷は市原市、堺市と山口県周南市の拠点で液化水素を生産している。新プラントでは年間 3000 トン程度の製造を想定し、生産能力は 3 割増の約 1 万 3000 トンとなる。岩谷によると、燃料電池車(FCV)10 万台が 1 万 3000 キロメートル走れる供給量に相当する。

水素は脱炭素に向け、製鉄、自動車、発電など幅広い活用が期待される。課題はコストで、価格は現在、1 ノルマル立方メートル(セ氏 0 度、1 気圧での体積)あたり 100 円程度と、天然ガスと比べ約 10 倍だ。政府は 30 年までに 30 円程度に下げる目標を掲げる。岩谷もこの水準をめざして、販売量を年間 30 万トンへ引き上げる考えだ。

液化水素販売で国内トップの岩谷は製造や貯蔵、輸送から利用までのサプライチェーン(供給網)を整えるため幅広く投資している。23 年 12 月にコスモエネルギーHD 株の約 2 割を 1000 億円超で取得し、3 月には持ち分法適用会社とした。これまでガソリンスタンドへの水素ステーション併設などに取り組んできた。

政府は水素などの国内供給量を現在の年間 200 万トンから 30 年に 300 万トンとすることを目指している。これまで水素の用途は液晶や光ファイバーなど特定の産業

に限られてきた。発電や FCV 向けをはじめとする水素の普及には、量産体制の構築は急務だ。

岩谷は水素を輸入する計画も打ち出している。オーストラリアから水素の調達に向け丸紅などと事業設計を進めている。水素はマイナス 253 度で冷却し液体にすると体積が 800 分の 1 に圧縮されるが、極低温で運搬できる船舶が必要となるなど、コストの課題は残る。

このため岩谷は国内での生産拡大が欠かせないとみて、増産に踏み切る。コスモとは天然ガスなどを改質して水素を生産するが、製造時に CO₂ を排出させてしまう。そこで岩谷は将来的に水素製造時に出る CO₂ を地下に貯留する「CCS」技術で排出量を実質ゼロにすることを目指す。

国内で石油の需要が低迷し製油所の活用策を探るコスモエネルギーHD は、コスモ石油堺製油所に再生航空燃料(SAF)の生産設備を建設している。岩谷と組むことで、水素の製造拠点としての機能も充実させる。



OPEC、石油需要予測 4 カ月連続引き下げ 中国が低迷

2024年の石油需要見通しの推移



(OPEC)は 12 日に公表した月報で、2024 年と 25 年の石油需要の前年からの成長予測を下方修正した。24 年の石油需要の伸びは 23 年と比べ日量 182 万バレル増とし、10 月時点から同 11 万バレル引き下げた。下方修正は 4 カ月連続となる。中国などで需要が低迷している。

25 年の伸び幅は 10 月の月報から同 10 万バレル下方修正し、24 年と比べ同 154 万バレル増と予測した。OPEC は石油需要が拡大するとの見通しを徐々に後退させている。

今回の月報で地域別で主に見通しを引き下げたのが中国だ。10 月の月報では中国の 24 年の需要の成長予測を 23 年比日量 58 万バレルとしていたが、今回は同 45 万バレルと見直した。

月報では中国について、軽油の需要が 7 カ月連続で前年より減少したと指摘した。製造活動の低迷や建設の減速などの影響を受けていると説明した。

中国などの世界経済の先行き不安から原油需要が伸び悩むとの見方が広がり、産油国は供給過剰となるリスクへの警戒を強めている。

OPEC とロシアなど非加盟国で構成する OPEC プラスは今月 3 日、12 月から予定していた有志国による自主減産の縮小の開始を 1 カ月先送りすると発表した。

サウジアラビアなど有志 8 カ国は原油価格下支えのため日量 220 万バレルの自主的な減産を実施中だ。12 月からこれを段階的に緩和し原油の供給を拡大する計画だった。当初は 10 月から供給を増やす予定だったが、9 月に開始時期を 2 カ月先送りしていた。

OPEC プラスは 12 月 1 日に閣僚級会合を開く予定で、今後の原油の生産政策などについて協議する。



アスファルト合材需要統計

ストアスの供給遅延が深刻、一部の油槽所で在庫切れに

東日本を中心に、油槽所のストアスの在庫不足が深刻となっている。9月上旬から定修が実施されている根岸製油所とコスモ石油の四日市製油所(日量8万6,000バレル)でストアスの生産が停止となるなか、8月末の台風10号の後も秋雨前線が停滞した影響を受け、ENEOS、出光興産、コスモ石油による製油所出しのストアスの転送遅延が続いている。

北海道では、伊藤忠エネクスの釧路と苫小牧アスファルト基地、東西オイルターミナルの釧路油槽所や三菱商事の小樽油槽所では、針入度が80~100のストアスを中心に厳しい出荷制限が敷かれている。東北でも富士興産の八戸油槽所、昭和瀝青工業の石巻油槽所で、契約先への出荷が厳しく制限されている。丸紅エネルギーの塩釜油槽所では、在庫減少が顕著で一部の契約先に対する出荷が延期となっているもよう。首都圏でも伊藤忠エネクスの袖ヶ浦油槽所、出光興産の横浜油槽所では、契約販売先に対する供給は限定的となっている。

ストアスの供給不足を補う目的で伊藤忠エネクス、三菱商事、昭和瀝青工業が輸入を増やしているが、韓国からの輸入船も遅れており、供給不足を解消するには至っていない。このなか、比較的供給余力のある西日本から首都圏へのストアスの陸送を検討するディーラーも出始めた。広域ディーラーは「いずれの基地も在庫不足が深刻。ディーラー間のバーターによりストアスを確保したいが、供給余力は何処にも見当たらない。10月下旬以降は、優先する契約販売先への供給確保に注力しており、それ以外の契約先への供給を断っている」と伝えている。

改質アスファルト製造企業にもストアスの供給不足の影響が出ている。特に千葉工場など船舶によるストアスの受け入れ比率が高いニチレキは、転送の遅れの影響を最も受けているようだ。



アスファルト合材需要統計

根岸製油所、出荷規制が延期

ENEOSは、根岸製油所におけるタンクローリーへの出荷規制の解除を11月18日へと延期した。当初は、同10日に解除する予定としていたものの、11月中旬に終了予定となっていた同製油所の定修が短期間ながら延期される影響を受け、供給予定の変更を余儀なくされたもよう。ストアスの海上転送の遅れも、ENEOSが出荷制限を延期する要因となった。ENEOSは9月に続き、10月も複数のカーゴを韓国から輸入したものの、ストアスの在庫繰りは依然として厳しいようだ。

一方、コスモ石油の四日市製油所では、9月29日から実施されている定修が、予定の11月上旬に終了となりそうだ。コスモ石油は定修中、四日市製油所において陸上出荷を継続する一方、備蓄設備を借り受けている伊藤忠エネクス（伊藤忠エネクス）の袖ヶ浦油槽所を含む一部の転送を除き、海上供給を停止していた。

製油所動向				
精製会社	製油所	常圧蒸留装置	能力 (千バレル/日)	概要
ENEOS	仙台	No.1	145,000	・備蓄設備1基で修繕作業が実施されており、備蓄能力の増減に押し生産量の低い状態が継続中。ニレキ・仙台工場、昭和造青工業・石巻油槽所で代替供給を実施中。
	鹿島	No.1	168,000	・ストアスの生産および出荷を6月末までに停止。
	磐井	No.4	153,000	・9月9日に始まった定修の終了は、予定の11月中旬から短期間延長となる見込み。
	水原A	No.3	150,000	・特になし。
		No.2	95,200	
	水原B	No.3	105,000	・特になし。
		No.4	128,000	
	大分	No.3	136,000	・ストアスの生産および出荷が4月から停止。
出光興産 四日市石油	四日市	No.2	100,000	・特になし。
		No.3	155,000	
コスモ石油	四日市	No.6	86,000	・9月29日から定修が開始。11月上旬に終了の予定。
西部石油	山口	No.2	120,000	・4月から製油所と油槽所機能が停止。代替供給は海上が昭和石油四日市製油所、陸上が西部特アス山口油槽所。

出所:市場情報をもとにリム情報開発が作成



週間原油コストの推移

週間原油コストの推移

	期間	原油相場		為替レート(▲は円高)		円建て原油コスト	
		ドル/バレル	前週比	ドル/円	前週比	円/ℓ	前週比
火曜日～ 月曜日	10/1～10/7	75.69	1.76	147.07	2.08	70.01	2.59
	10/8～10/14	78.76	3.07	149.55	2.48	74.08	4.07
	10/15～10/21	74.56	▲4.20	150.63	1.08	70.64	▲3.44
	10/22～10/28	74.85	0.29	153.10	2.47	72.07	1.43
	10/29～11/4	72.71	▲2.14	153.98	0.88	70.41	▲1.66
	11/5～11/11	74.71	2.00	154.24	0.26	72.47	2.06
水曜日～ 火曜日	10/2～10/8	77.21	3.75	147.83	2.77	71.79	4.77
	10/9～10/15	78.04	0.83	149.99	2.16	73.62	1.83
	10/16～10/22	74.38	▲3.66	150.85	0.86	70.57	▲3.05
	10/23～10/29	74.70	0.32	153.54	2.69	72.13	1.56
	10/30～11/5	73.20	▲1.50	153.86	0.32	70.83	▲1.30
	11/6～11/12	74.29	1.09	154.52	0.66	72.20	1.37

※原油はドバイ、オマーン平均、為替レートは三菱UFJ銀行のTTSレート